

# 磐城時報

編輯人 岡田弘成  
印刷所 磐城印刷局  
電話 二四一  
代金 毎行一圓  
廣告料 一行一圓  
印刷部 電話 二四一  
電話 二四一  
電話 二四一

## 堀江氏の強硬な態度で 健康相談所悩む

### 保険の募集も思はしからず 平郵便局で氣を揉む

平町に新築する簡易健康相談所二十九聯隊留守隊長江中佐の談所は字田町に敷地を選定した時局講演會を開く。

## 朝日の展覧會

朝日新聞社主催の日支衝突突圍發見品展覧會は十三日午後零時三十分線出し勸誘につとめてゐるが新分から平町役場會議室に開催す加入の一方には解約續出し八日。

## 平みのり會例會

平みのり會例會は十二日午後七時から同日日本キリスト教會堂にて「家庭日常料理」に就いて警城高女教諭内村理氏の講話の軍事査閲を執行、終つて若松終つて座談會を催す由。

## 平商校査閲

平商校の警城高女教諭内村理氏の講話の軍事査閲を執行、終つて若松終つて座談會を催す由。

## 高岡氏の死報に 政界の巨頭悲しむ

### 八田、木村兩代議士談

石城郡草野村高岡唯一郎氏は昨報の如く九日死去したが、同氏は地方政界の重鎮として活躍して来た人であるため地方政界の巨頭連は何れもその死を惜んでゐる。高岡氏の死を聞いて八田宗吉代議士並に木村清治代議士は左の如く語る。

## 情誼の人

高岡氏は自由黨以來の政治家として終始一貫其節操を全ふした。吾人の先輩としてきた本縣政友の元老として常に敬慕して居たのであるが、今此

## 自信力の人

本村代議士談  
惜しい人に逝かれて洵に残念です。氏は常に政治的方面に絶大な進力を持つてゐると同時に實業界に於ても實に多大の手腕を卓越せる識見を持つて居られた人で、殊に私の敬服する所は何か問題が起ると直ぐ動するのが普通人であるが、氏は決して動かす静観したる後直に之に對して果斷の態度を執つてゐたことでは何處までも押自分の思つた所常に自信力の強い人であつた。今氏の訃報に接して洵に哀惜に堪へないものがある。

## 遊興稅取立不能で 縣を恨む平町

### 四苦八苦の花柳界

平町に對し縣稅務當局が割當てたため未だに賦課し得ない實狀を内示した六年度遊興稅は料理に置かれてゐる。即ち縣稅に對し屋敷合九千八百二十八圓、貸座敷に對し附加稅は六割八分にして敷二千四百二十圓、三業組合千遊興稅一萬三千五百三十七圓に二百九圓、カネエ一百四十圓の對し平町が附加徵收する金額は合計一萬三千六百三十七圓なる實に九千二百七十三圓の巨額に對し各營業組合では極端な財上り既に當然徵收済みとなるべし。不不振から營業收入は三四年前より十二月に至つて未だに賦課に比し殆ど半減せる折柄斯くのへ見す、さなきだに財界逼迫の如き過重な賦課に應ずることは平町當局では縣當局の怠慢によつて出来ないと苦情を言ひ出し縣より一萬近い町稅の未收入を余儀各組合との間に屢々折衝を重ねなくせしめられてゐるが、前記の如き過重な賦課に對する附加稅問題は獨り平町のみでなく縣下各地の市町村とも同様の苦を嘗め均しく之れに伴つて平町の收入も縣當局の無責任と怠慢を糺すべく縣稅附加の町稅額が未決定の聲が高まつてゐる。

## 在滿兵慰問 寄附者芳名

十二月十日正午まで受付の分  
起(順) 小田 吉治  
野上 茂藏  
諸橋 久太郎  
原 義雄

## 支那兵と三名斬つた 滿洲の佐藤長丸曹長が

### 實姉清野女史に寄せた通信

チ、ハル附近の守備に任じてゐる歩兵第〇〇聯隊第五中隊歩兵曹長石城郡草野村出身の佐藤長丸君の家族妻女たけよ、長女啓子さんは目下奉天に居住してゐるが、長丸君の長兄長久氏は海軍の兵曹長、また次兄正君は歩兵上等兵、弟勝

### 第十營業報告

自昭和五年十一月一日  
至昭和六年十月卅一日

金壹圓	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦
金壹圓	從業員一
金貳拾錢	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦

金壹圓	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦
金壹圓	從業員一
金貳拾錢	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦

金壹圓	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦
金壹圓	從業員一
金貳拾錢	小田 秀
金貳拾錢	清水 ふみ
金四圓	新妻 てる
金四圓	隅田川炭礦

## 平製氷株式會社

昭和六年十一月十一日

### 全身強健術

平町魁文堂内草野式全身強健術普及會では十三日午後六時から平町平陽女學校で實演會を催はすが、講師は内郡村白水郵便局草野道夫氏である。

### 火消防検閲

大浦村消防組秋季横閲は九日午前八時より同村小學校庭に行なつたが成績良好であつた。

### 世界館で

#### 慰問金募集

三日間興行 平町駅前活動常設館世界館では十一日、十二日、十三日の三日間滿洲出征軍人慰問興行として「嗚呼若林大尉」の外「旗本六法組」「傷ける人魚」を上映するが入場料は普通席は十錢、特別席は三十錢、同前賣券は二十錢である。

### 磐城青年同盟

#### 演藝大會番組

けふ四倉場で開催 磐城青年同盟會では在滿軍人慰問金募集のため十一日午後六時より演藝大會を開催するが、番組左の如くである。  
合唱「戦友」全員總出演、オケストラ「君ヶ代行進曲」(學校職員有志、民謡(磐城自出度)瀬谷圭肖、尺八(茶湯音頭)同)六段、浪花節忠衛、手踊(深川)みつ子、一平、里千代、さん子、ちび、けさ、小光、喜久二、小太郎、グイオリン、西山、佐藤、琵琶(特別出演)大原錦陵、踊草野幸太郎、尺八合奏(梅にも春、春雨、田中榮七、佐藤泰次郎、佐藤、尺八)

### 八(山谷鈴慕)田中、佐藤、オケストラ(觀兵式行進曲)學校職員有志、手踊(拾級)春千代、小光、喜久二、小太郎、民謡酒井貞三、詩吟(錦州城)新妻錦秋、踊、大野白岩青年獨唱、ソプラノ(特別出演)柳美沙子、浪花節、竹永秀、民謡、佐藤源七、童謡、學校職員有志、踊(おけさ踊)大浦青年團、浪花節、鈴木和幸、手踊、(紅葉)橋藝妓總出演

### 銅線泥棒

石城郡磐崎村小野田推名清長(三三)は附近炭礦から銅線を窃取して十日平署に捕はれた。

### 世界館で

#### 三十六圓拾得

平町町田渡邊キミ(十七)は四日世界館で現金二十六圓九十六錢

### 電話開通

四倉 一二二二番 早川自動車部 石城郡大浦村 自動車、御用命ハゼヒ早川ヒ

### 高久の泥棒

石城郡高久村古屋敷ブリキ職鈴木彌太郎(三八)は平町、飯野村等で數件の窃盜をはたらき八日平署に遺失者と判明した。

### 傳染病發生

好間村上好間小館小林秀雄(一)赤井村高萩山の入内川トキ(三)上小川村園部良子(二)はデフテリア北好間大田ヨシ(三三)はバラチブ榮七、佐藤泰次郎、佐藤、尺八と決定した。

佛國マルソー會社元話 生葡萄酒 マルソー・フランク・白 子 1.10 マルソー・ルージュ・赤 良品にして安價賣行飛ぶが如し 西村屋藥局

腸胃 專科 松村 皮膚病 淋病 婦人病 十二指腸病 胃腸病 胃腸科醫院 (七〇一話電) 町南町平

大城無盡 共済共栄 誠意 堅實 誠實 堅實

債券、公債、兩替金融 多田井質店 平町大工町 (電話五九一番)

度量衡計量器 吸入酸素器 吸入酸素器 關内藥局 電話四〇番

冬の洋服 御召替の節となりました。皆様の御氣に召す品を豊富に取揃へて御座ひます。 細目サージ背廣 ¥12.00 ウラスデッド背廣 ¥11.00 黒サージ立襟 ¥5.30 オーパー ¥4.50 ぶかや洋服店 平 二 電 203

開院 難波醫院 (平町大町) (電話五〇二番) 醫學博士 難波 陸 入院需に應ず 自炊の便あり 看護婦至急募集

「アンカ」コタツに徳用な 木炭 たごん 製造元 鈴木炭團製造所 平町古鍛冶町杉ノ澤 平町二丁目(警察署通り) 魚清水卸部 電話四六七番 尙氷の御注文電話四六七番

父高岡唯一郎儀兼て病氣療養中の處藥石効無く九日午後十時死去仕候間此段生前辱知諸賢に謹告候 追て送葬の儀は十二月十四日午後一時自宅に於て佛式相營申候 十二月十日 福島縣石城郡草野村 親戚總代 高岡文三 酒井國三 山崎吉平 伊藤淺之助 松本孫右衛門 犬養毅 堀切善兵衛 八田宗吉 石射文五郎 木村清治郎 山崎與三郎 安島重三郎 白井博通 金成 友人總代